

日頃の教育に対する工夫、及び今後の教育への抱負

高田宗樹

学術研究院工学系部門・知能システム工学講座

令和 6 年度に優秀教員に選出され、教育に対して考えていることなどを述べたいと思います。まず、今年度の担当科目は、物理学 B（電磁気学）、応用数学 A（微分方程式論）、応用電磁学、認知・情報処理などです。

まず、この数年はコロナ禍によって、教育方法も変化が多い日々を過ごしてきました。その中で、対面講義だけではなく、オンライン講義やオンデマンド講義など、選択肢の幅が広がりました。授業内容によっては、従前の対面講義ではなく、オンデマンド講義のように自分の自信のペースでかつ、振り返りながら学習できる方法も効果的なのではないかと考えています。そのため、今後も、授業の方法については模索していければ、と考えています。

次に、昨今 ChatGPT を始めとする生成 AI が急速に普及し、学習方法だけではなく、社会も大きく変容しつつあります。同時に、生成 AI によるフェイクが問題になったり、社会の構造変化がこれまで以上に起こりやすい時代になったりしています。また、今後の社会においては、量子コンピュータの実用などに伴い、更なる変化が見込まれています。こういった社会の変化の中において、自分なりの評価軸を持って自律／自立して活動することが重要になると思っています。その自分なりの評価軸を持つためには、大学の講義をただ受講するだけではなく、書籍や新聞、ニュースに積極的に触れて、自ら進んで知識を取り込む必要があります。一方で、論語にも「学而不思則罔、思而不学則殆」とあるように、思考とそのバランスも大切です。加えて、工学系の学生さんですので、授業や実験、研究などを通じて、仮説検証型の思考を兼ね備えることも必要だと思います。

最後に、大学生活はこれからの将来を考える上でも大切な時期です。そのため、今日明日、来週、来月といった直近のことだけを考えるのではなく、卒業後やその先々の将来設計といった中長期の視点を持ち、そしてその視点から「今何をすべきか」という目標を考え、学生生活を過ごすことも大切だと考えています。くれぐれも時間を大切にしてください。

「水自竹辺流出冷 風従花裏過來香」（古尊宿語録より引用）ともありますが、福井大学の学びが人生の糧になるようにお祈りしております。